

保健所が「ゴキブリ」の混入経路として「破れ・隙間」を指摘する



※写真はイメージです。

今回の問題では、山梨県内のスーパーで販売されたツナ缶「シーチキンLフレック」に1.5センチほどのゴキブリとみられる虫が混入していた。山梨県は、スーパーから通報を受けて20日に静岡市保健所に調査を依頼しており、保健所は28日、食品衛生法に基づいて、同市内の下請け工場への立ち入り検査を行った。

害虫駆除の記録や工場施設を確認した結果、原料や資材を搬入するためのビニール製シートのシャッターが長年の使用で劣化しており、破れや隙間が見つかった。食品衛生課では、ここから虫が入った可能性があるとしており、はごろもフーズ側に対し、施設をチェックして、虫の侵入を防ぐよう指導した。

その後に改善したかを確認するため、後日に再び立ち入り検査を行う予定だともしている。
(引用転載:J-CAST ニュース 2016/10/31 14:38 より)

ゴキブリの侵入経路を特定し、有効な対策を実施しましょう。

上記の記事は、2016年10月に山梨県のスーパーで販売されたツナ缶にゴキブリが混入していた、**異物混入事故**です。健康被害等はなかったものの、**ゴキブリの異物混入**により、一部のスーパーでは同社製のツナ缶を一時売り場から下げるなどの対応がなされました。保健所の立ち入り検査から、**搬入口のシャッターが経年劣化により破損しているのが発見**されており、**外部からの虫の侵入が可能な状態**であったと言われています。今回の異物混入事故から、**食品工場での防虫対策の重要性から施設や設備管理**について考えました。

■ 原因の推測

問題となった事象	原因を考えるポイント
商品への虫の混入	① 定期的にモニタリングが実施され、記録はあったか。
	② モニタリング記録を検証し、継続的な対策が実施されていたか。
	③ 一般衛生管理による施設内の設備の点検記録はあったか。

■ 対策案

食品工場で起きる異物混入事故の原因の多くは虫であると言われています。虫の混入を防止するには、虫の種類の特定制と、その発生要因と侵入要因をモニタリング等で明らかにし、適切な対策をしていくことが肝要です。たとえば、内部発生であれば防虫衛生の徹底、外部侵入であれば侵入経路を断つ、隙間を塞ぐなどの対策ができます。いずれも建物内や設備の状態の定期的な点検を行い、記録することで最適な状態を保つことができます。

▼ 外部からの虫の侵入防止のポイント

- POINT 1 : 定期的なモニタリングにより、虫の侵入経路を特定する。
- POINT 2 : 侵入経路となっている隙間等を塞ぐ。(コーキング、ゴム、ブラシなど)

提案する防虫対策製品	選択する理由
シャッター隙間対策ブラシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫の侵入経路となるシャッターの隙間を埋める専用ブラシです。 ・窓枠やドアの隙間などを塞ぐことで、外部からの昆虫の吸込みを低減できます。 ・既設の電動シャッター、手動シャッター、シートシャッター、オーバードアに後付けで設置できます。

(株)バーテックでは、このような事故の予防のため、食品製造業向けのブラシの提案だけでなく、現場の作業員から普段の清掃作業で求められている結果を得られているかなどを聞き取り、清掃マニュアルをはじめとする食品製造現場の衛生管理レベルの向上をお手伝いしています。まずは、弊社営業担当者、またはメールアドレス (is@burrtec.co.jp) までご相談ください。